



学校だより 3月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番

TEL (811) 6710

子どもたちの力を信じて

校長 副島 江理子

春一番が吹き荒れ、今年もまた春が巡ってきたことを感じます。私のような年になるとあっという間の一年間ですが、毎日毎日、知恵をつけ心も体も成長する子どもたちの一年間はなんと重みのある時間でしょう。

私は緑園東小学校に来て4回目の春を迎えますが、年々、子どもたちの確かな成長に心を打たれ、胸の熱くなる日々が増えてきたように感じます。

先日、今年度の募金活動が行われました。本校は、毎年、運営委員会が呼びかけて「ユニセフ募金」や大きな災害にあった地域への募金活動を行っています。今年は、チャリティー募金へと活動が拡大しました。さかのぼること9か月前。4年生4名が突然校長室に相談に来ました。熊本地震で被害にあった方々を助けるために何かしたいと話していたところ、家族からチャリティー活動を教えてもらったので、放課後、中学校予定地でチャリティースポーツ大会を開きたいとのことでした。4年生ながらによく考えたと感じました。子どもたちの思いを実現させる方法はないかと児童会担当の職員にも相談し、運営委員会主催で「チャリティースポーツ大会」を開催することができました。

当日は、早くから運営委員の5、6年生が「サッカーPKコーナー」や「走りはばとびコーナー」等の準備をして、わかりやすく進行をする一方、募金活動の呼びかけを行いました。子どもの発案によってより創造的な活動が実行できたことに、教職員一同、大きな手応えを感じました。

本校は、子どもたちが「自分たちでよりよい学習・生活をつくりだす」ことができるよう、「児童主体の学習や活動」に取り組んできています。「けが0プロジェクト」や、6年生の「緑園名瀬模擬選挙」「卒業研究」の取組等にも反映させてきました。実際には、子どもたちが日々の生活・活動に自分たちの思いや願いを生かしていくことはなかなか難しいことです。でも、今回の「チャリティースポーツ大会」をよい学びとして、これからも自分たちで発案し、実現していく「叡智」を育てていってほしいと思います。

また、子どもたちは、「けが0プロジェクト」で「心できず(づ)くけが0プロジェクト」のテーマのもと、自分や友だちの気持ちに気づいて、自分も相手も尊重する態度を築こうと努力を続けてきました。「自分も相手も尊重する」ことは大人でもなかなかできないことです。特に子どもたちにとって、日々、生活を共にする友だち同士、互いに尊重し合うことはとても難しいです。それでも、自分たちで「大きな心をもつ緑園の子」とめあてに掲げ、学校全体で子ども会議や集会を重ね、問題が生じたときは、友だちとの話し合いを続けてきました。自分の気持ち、相手の気持ちを振り返る場をもち続けることが、一人ひとりの心の成長につながると信じて、これからも子どもたちを支援していきます。

3月17日で6年生が卒業します。今年の6年生は例年より20名も少ない人数で、立派に最高学年としての責任を果たしてくれました。頼もしいリーダーであり、下級生の憧れの存在でした。眩しさを増す朝陽の中で、爽やかに挨拶をする6年生を、あとわずかしか迎えることができない一抹の寂しさを感じています。

今年度も本校の教育活動を支えていただきましてありがとうございます。子どもたちの確かな成長は、保護者、地域の皆様のあたたかいお力添えがあつてのことです。心より深く御礼申し上げます。

本年度も教育活動をまとめたパンフレットを作成いたしました。近々、配布いたしますので、目を通していただければ幸いです。